

令和元年度

事務事業評価表 A (平成30年度の実績評価)

記入年月日
平成 31 年 4 月 8 日

事務事業名		国指定史跡真壁城跡保存整備事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	020501000896
						単独/補助	補助		090601
政策体系	総合計画の施策名	0205 文化財の保存・活用		文化財の保存・活用		主要事業		所属課	生涯学習課
	政策名	02 生きがいを育む学びのまちづくり		市長マニフェスト					
	施策名	05 文化財の保存・活用		未来PJ事業		グループ		文化財G	
	手段名	01 ①文化財の保存		合併建設計画事業					
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業細	一般会計			
	01	10	06	07	01 00	史跡等保存整備事業			
法令根拠						文化財保護法、史跡真壁城跡整備検討委員会設置要項			
【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)									

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要 (事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
<p>国指定史跡真壁城跡の保存整備及び啓発を目的とした事業</p> <p>史跡真壁城跡地内の発掘調査を実施し、成果を真壁城跡整備検討委員会で協議し、保存整備工事内容を決定する。保存整備工事は地形の保護・復元等を実施。</p> <p>保存整備事業は外曲輪 (外周部) から本丸 (中心部) へと進める。</p> <p>啓発業務は保存整備事業の成果を公開活用し、観光と教育普及活動等を実施する。</p> <p>事業費の内訳 史跡保存整備 国庫補助金 (対象経費の1/2) 及び市費 啓発業務 予算なし</p>	<p>史跡真壁城跡整備検討委員会を開催し、決定事項にしたがって整備工事及び発掘調査を実施する。計画はH27年度史跡真壁城跡整備基本設計に基づくものとする。</p> <p>保存整備工事：中城の復元整備 発掘調査：中城調査 啓発業務：発掘調査現地説明会、城跡案内、研修会、発掘体験、職場体験</p>

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
史跡真壁城跡整備検討委員会を開催し、決定事項にしたがって整備工事及び発掘調査を実施する (保存整備)。整備事業の成果について公開活用をおこなう (啓発)。	発掘調査面積	m ²	500.00	500.00	500.00	500.00	500.00
	保存整備面積	m ²	1,500.00	4,300.00	2,000.00	5,000.00	5,000.00
	各種講座の回数	回	45.00	30.00	45.00	48.00	48.00
	各種講座の参加人数	人	1,320.00	1,380.00	1,440.00	1,500.00	1,560.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
真壁城跡 (保存整備) 市民、観光客、児童・生徒、研究者 (啓発)	真壁城跡面積	m ²	125,251.00	125,251.00	125,251.00	125,251.00	125,251.00
	桜川市の人口	人	41,278.00	41,008.00	40,738.00	40,467.00	40,467.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	29年度 (実績)	30年度 (実績)	01年度 (計画)	02年度 (目標)	03年度 (目標)
発掘で歴史的資源価値を高め、復元工事により、保護・公開・活用促進する。(保存整備) 真壁城の公開活用による知識・興味の向上 (啓発)	発掘調査完了面積	m ²	32,873.00	33,373.00	33,873.00	34,373.00	34,873.00
	保存整備完了面積	m ²	32,158.00	36,458.00	38,458.00	43,458.00	48,458.00
	参加人数の前年度比較 (増減)	人	60.00	60.00	60.00	60.00	60.00

(3) 投入量 (事業費) の推移							期間限定 総投入量
投入量	事業費内訳	国庫支出金	千円	13,890	43,207	55,732	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	23,593	48,801	61,197	0
		事業費計 (A)	千円	37,483	92,008	116,929	0
	正規職員従事人数	人	2.00人	3.00人	3.00人		

30年度事業費 実績 (千円)			01年度事業費 予算 (千円)		
01 報酬	78		01 報酬	108	
04 共済費	15		04 共済費	42	
07 賃金	10,582		07 賃金	13,617	
09 旅費	96		09 旅費	537	
11 需用費	1,412		11 需用費	1,165	
12 役務費	29		12 役務費	39	
13 委託料	6,176		13 委託料	25,916	
14 使用料及び賃借料	611		14 使用料及び賃借料	958	
15 工事請負費	73,009		15 工事請負費	74,448	
	合計	92,008		合計	116,929

(4) 当該年度の実施内容		01年度の事業内容	02年度の事業内容	03年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する	史跡真壁城跡保存整備事業 発掘調査 (中城) 復元工事 (中城)	史跡真壁城跡保存整備事業 発掘調査 (中城) 復元工事 (中城)	史跡真壁城跡保存整備事業 発掘調査 (中城) 復元工事 (中城)	史跡真壁城跡保存整備事業 発掘調査 (中城) 復元工事 (中城)
<ul style="list-style-type: none"> ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業 	→			

事務事業名	国指定史跡真壁城跡保存整備事業	事務事業No.	20501000896	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
平成6年に国指定になり、保護・活用を図るため、平成9年度から国庫補助、県費補助を受けて開始。発掘が進み、調査効率は向上したが、予想外の大規模庭園等で調査に時間と費用のかかり進捗がはかどらない。この数年は日本各地の災害復旧を優先するため補助金削減4割前後が続き、迅速な計画達成が困難な状況となっている。啓発業務は、以前は市外が大半だったが、古道とあわせた案内が人気で、市内参加者も増加傾向にある。	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
歴史公園として早期の公開・活用を望む。真壁伝承館歴史資料館をはじめ、城下町、古道など周辺の歴史資源と連携した歴史講座や活用事業を増やして欲しい。市民参加者の増加。現況は市外の来訪が多い傾向にある。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	平成26年度以降、工程の迅速化のため、発掘・整理調査、整備基本設計、実施設計、工事を同時平行で進めてきたが、整備中心地区である庭園部分1万㎡については基礎データ作業(発掘調査作業、整理作業、発掘報告書の完了)の量が多く、追いつかない状況にある。事業庭園整備を迅速に進めるには、発掘報告書をもとに文化庁と早期に調整する必要があり、人員配置等を充実させて基礎データ作業を早期に完了し、事業のさらなる効率化をはかりたい。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 真壁城跡の保護と活用に繋がり、桜川市の魅力を高める。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 国指定の市有財産であり、歴史景観をわかりやすく復元して価値を高め、茨城県を代表する城郭遺跡として、最大限活用する必要がある。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 発掘調査区の設定や工事の手法を多様な視点から検討し、効率化と最大限の効果がはかれるように活用している。
効率性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 公開・活用ができなくなり城跡の価値が生かせなくなる
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業は無い
	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 必要最小限で行っている
⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	
<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 市の財産である	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性 (次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	平成27年度に整備基本設計を策定し、平成30年度は南西ゾーンの土塁・堀などの復元工事を実施した。発掘調査は庭園西部の新たな園路などを発見し、庭園の発掘・整備全体について文化庁の指導を受けることができた。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下			×																						
復元工事はH29年度に1年前倒して着手したものの、全国的な災害復旧事業の増加により文化財補助金の削減が続き、事業全体が遅れる要因となっている。今後は整備範囲や優先順位の見直しなどで、計画的な成果達成・公開活用ができるように改善する。 発掘調査は、庭園の規模が大きく、全国的にも希少な時代・内容の遺構であるため、文化庁からは慎重な調査を行うよう求められている。 今後は遺構の掘り下げを最小限にするなど可能な限り効率化をはかることで、迅速な完了を目指す。 啓発事業は担当者1名の療養により文化財講座等の回数が減じたが、H31年度以降は通常の開催に復帰して、事業効果を向上させる。		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果	①																							
		コスト削減優先度評価結果																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A:継続(現状維持) C:終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> A B:継続(改革改善を行う) D:2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>